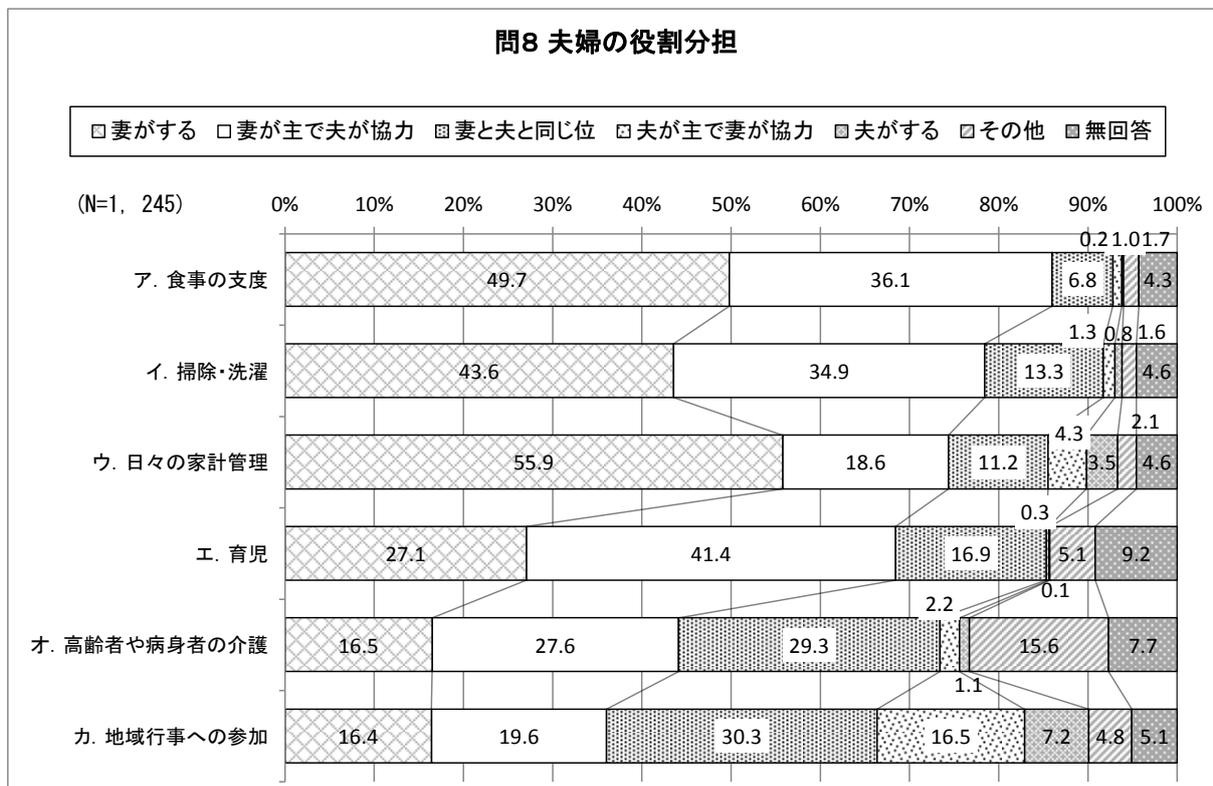


(3) 家庭生活について

問8 あなたのご家庭では、夫婦の役割分担はどのようになっていますか。単身者の方は一般にどのように役割分担するのがよいと思われますか。次のア～カの項目についてそれぞれ1つずつ選んで番号に○をつけてください。(単数回答)

図 15

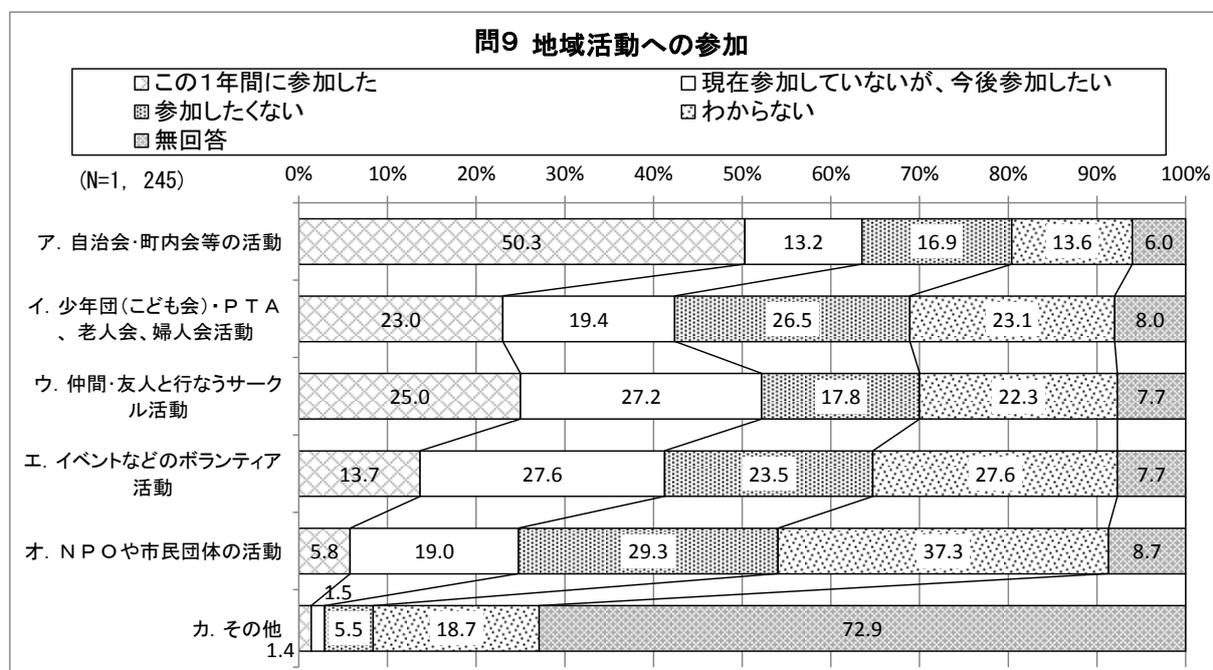


「夫婦の役割分担」については、「食事の支度」、「掃除・洗濯」、「日々の家計管理」については約半数が「妻がする」となっている。前回の調査と比較すると、「食事の支度」については、「妻がする」49.7% (66.5%) 「妻が主で夫が協力」36.1% (19.3%) と男性も家庭における役割を担うようになってきている。「高齢者や病身者の介護」については、「妻がする」と「妻が主で夫が協力」の合計で44.1% (40.9%)、「夫がする」、「夫が主で妻が協力」が合計で3.3% (2.1%) であり、夫がする割合が低い「妻と夫と同じ位」が29.3% (17.5%) と増加している。

また「地域行事への参加」では、「夫がする」と「夫が主で妻が協力」の合計で23.7% (25.0%)、「妻がする」、「妻が主で夫が協力」36.0% (41.0%) 「妻と夫と同じ位」30.3% (20.6%) であり、男性がその役割を担うことが多くなっている。

問9 あなたは、この1年間に何か地域活動に参加したことがありますか。また、今後参加したい活動はありますか。次のア～カの項目について、それぞれ1つずつ選んで番号に○をつけてください。(単数回答)

図 16

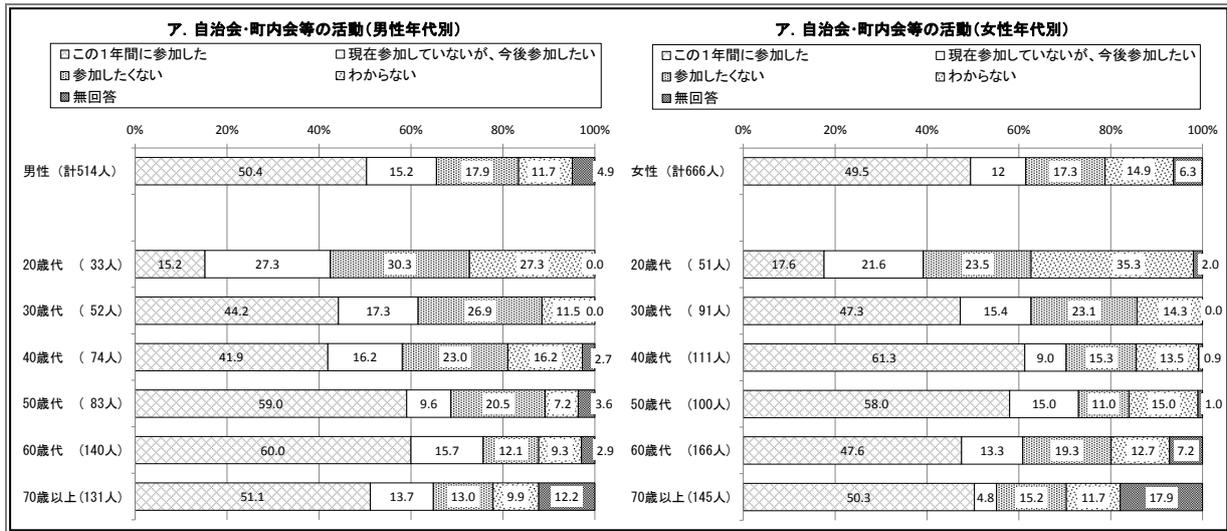


この1年間に参加した活動については、「自治会・町内会等の活動」で 50.3% (44.6%)、「仲間・友人と行うサークル活動」 25.0% (28.1%)、「少年団 (子ども会)・PTA、老人会、婦人会活動」 23.0% (21.7%)、「イベントなどのボランティア活動」 13.7% (12.2%) となっており、前回調査とほぼ同様の傾向にある。「自治会・町内会等の活動」が地域活動の中心となっている。

参加してみたい活動では、「イベントなどのボランティア」が最も多く 27.6% (31.8%)、次いで「仲間・友人と行うサークル活動」 27.2% (30.9%) となっているが、前回の調査と比較するとその割合は低くなっている。

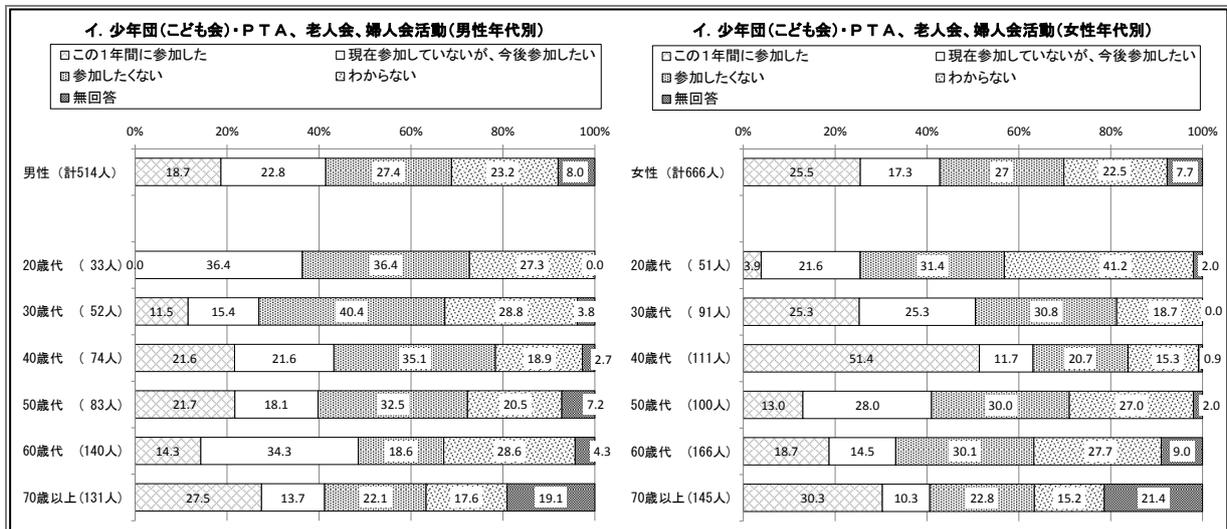
ボランティアや仲間内の活動に関心がある一方で、「NPOや市民団体の活動」には 29.3% (25.0%) が、「少年団 (子ども会)・PTA、老人会、婦人会活動」には 26.5% (23.4%) が、「自治会・町内会等の活動」でも 16.9% (18.3%) が「参加したくない」と回答しており、前回の調査と比較すると「自治会・町内会等の活動」を除くとその割合は増加傾向にある。

図 16-ア



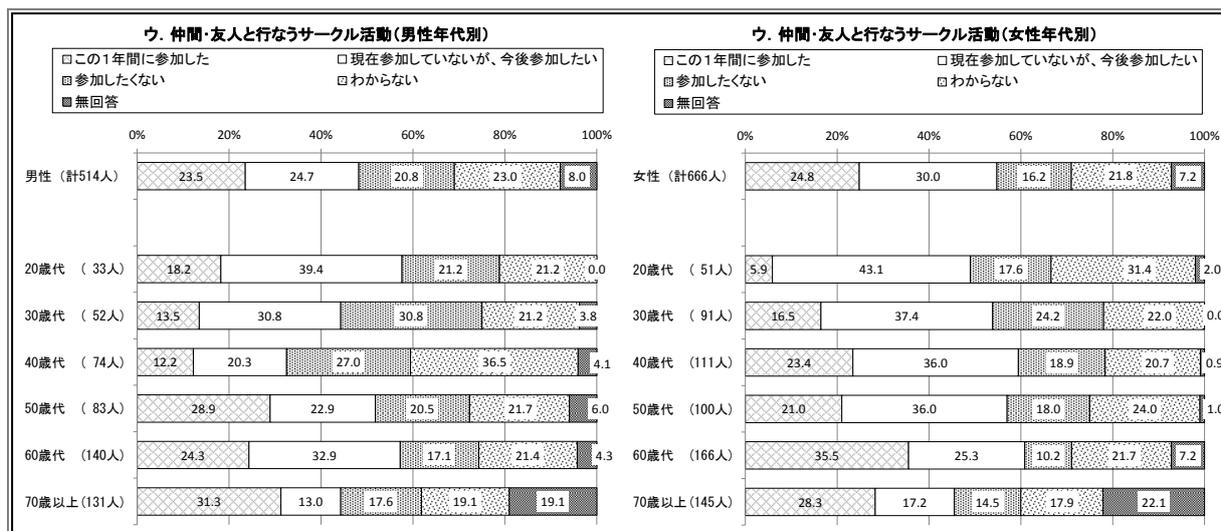
「自治会・町内会等の活動」については、男性が活動に参加している割合が、他の地域活動よりも高い。参加状況は男性で20歳代は低く30歳代から60歳代まで上昇、その後やや低下する。女性は40歳代まで上昇しその後やや低下する。「参加したくない」との回答は男女とも、年代が高いほど低下している。また、「現在参加していないが、今後参加したい」は、男性が女性を上回る傾向にある。

図 16-イ



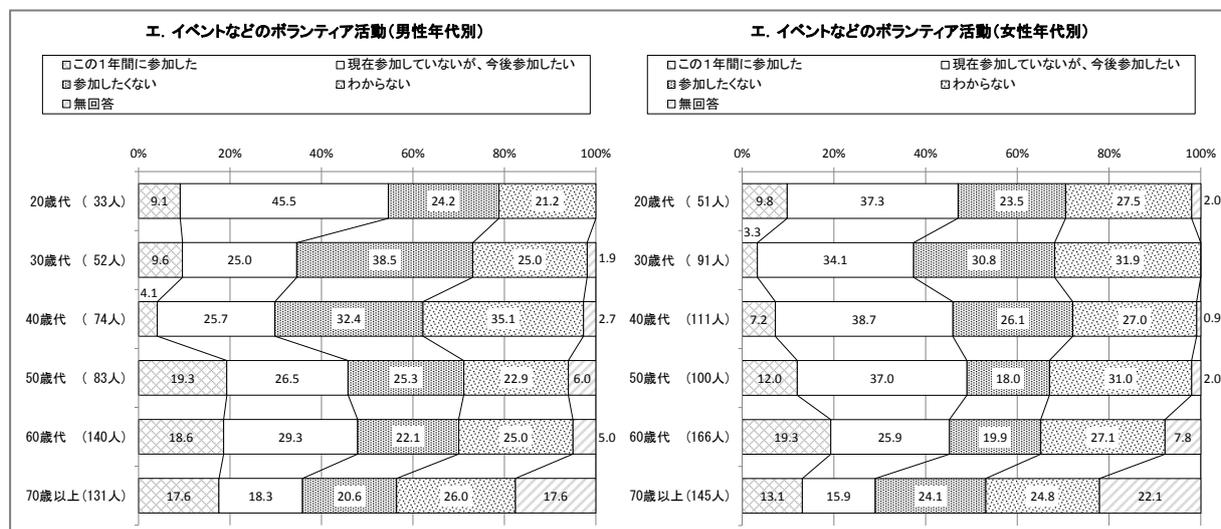
「少年団等(こども会)・PTA、老人会、婦人会活動」については、参加した人の割合は女性が多い。参加の割合が高いのは40歳代の女性で、51.4%(38.8%)である。その一方で「参加したくない」という回答は30歳代の男性で高い。

図 16-ウ



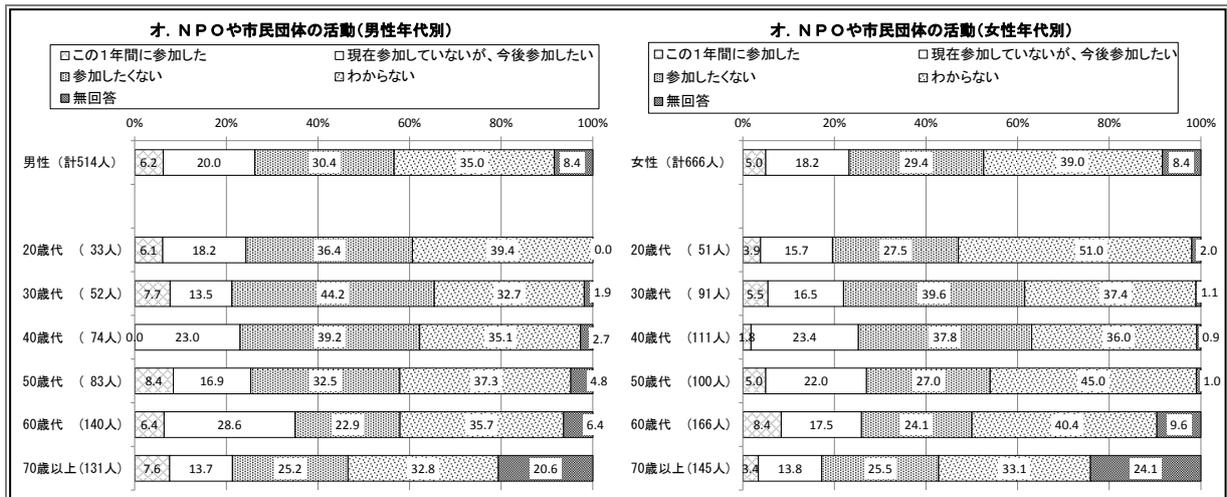
「仲間・友人と行うサークル活動」については、20歳代では「参加している」が男性で18.2%、女性で5.9%と低いが、「参加したい」との回答がそれぞれ39.4%、43.1%と高く、仲間での活動に若者世代は積極的である。男性は40歳代まで「参加している」、「参加したい」割合が低下し、50歳代では参加している割合が高くなる。

図 16-エ



「イベントなどのボランティア活動」については、男性では年代が高いほど「この1年間に参加した」割合が高くなり、50歳代では19.3%となる。女性は60歳代で19.3%となるが、男女とも40歳代までは10%未満である。男性では、「現在は参加していないが、今後参加したい」との回答が20歳代で45.5%ある。

図 16-オ



「NPOや市民活動団体の活動」については、男性の20歳代で39.4%、女性の20歳代で51.0%と、他の地域活動よりも「わからない」との回答が多く、実際に活動している人は男性では50歳代で8.4%、女性は60歳代で8.4%など高い年代に多い。「参加したくない」との回答は、男性の50歳代以下で30%を上回り、女性でいずれも20%を超える。

表 1

活動内容	活動状況	男女共同参画社会の認知度					
		知っている		聞いたことがある		知らない	
		件数	割合%	件数	割合%	件数	割合%
自治会・町内会等の活動	この1年間に参加した	249	58.9	238	55.1	125	42.8
	現在参加していないが、今後参加したい	59	13.9	64	14.8	37	12.7
	参加したくない	65	15.4	67	15.5	75	25.7
	わからない	50	11.8	63	14.6	55	18.8
	合計	423	100.0	432	100.0	292	100.0
少年団（こども会）・PTA、老人会、婦人会活動	この1年間に参加した	123	29.7	100	23.8	54	18.6
	現在参加していないが、今後参加したい	91	22.0	93	22.1	54	18.6
	参加したくない	104	25.1	118	28.1	104	35.9
	わからない	96	23.2	109	26.0	78	26.9
	合計	414	100.0	420	100.0	290	100.0
仲間・友人と行なうサークル活動	この1年間に参加した	140	33.5	103	24.4	58	20.1
	現在参加していないが、今後参加したい	123	29.4	126	29.9	86	29.8
	参加したくない	73	17.5	77	18.2	68	23.5
	わからない	82	19.6	116	27.5	77	26.6
	合計	418	100.0	422	100.0	289	100.0
イベントなどのボランティア活動	この1年間に参加した	85	20.4	55	13.0	24	8.3
	現在参加していないが、今後参加したい	127	30.5	133	31.4	78	27.1
	参加したくない	99	23.8	99	23.3	90	31.3
	わからない	105	25.2	137	32.3	96	33.3
	合計	416	100.0	424	100.0	288	100.0
NPOや市民団体の活動	この1年間に参加した	37	9.0	23	5.5	9	3.2
	現在参加していないが、今後参加したい	103	25.1	86	20.4	41	14.4
	参加したくない	126	30.7	129	30.6	104	36.5
	わからない	145	35.3	183	43.5	131	46.0
	合計	411	100.0	421	100.0	285	100.0

「男女共同参画社会の認知度と各種地域活動の状況」（表1）については、「自治会・町内会等の活動」でみると、「男女共同参画社会の認知度」について「よく知っている」と回答し、「この1年間に参加した」人の割合は58.9%（59.9%）であり、「参加したくない」との回答は15.4%（13.0%）である。

これに対し「知らない」と回答し、「この1年間に参加した」人の割合は42.8%（39.2%）であり、「参加したくない」人の割合は25.7%（25.5%）である。「男女共同参画社会の認知度」が高いほど、「自治会・町内会等の活動」に参加する傾向がみられる。

また、この傾向は「自治会・町内会等の活動」以外の活動についても同様である。

問 10 男性の家庭への参加に必要なことについてお伺いします。あてはまるものをすべて選んで番号に○をつけてください。(複数回答)

図 17-1

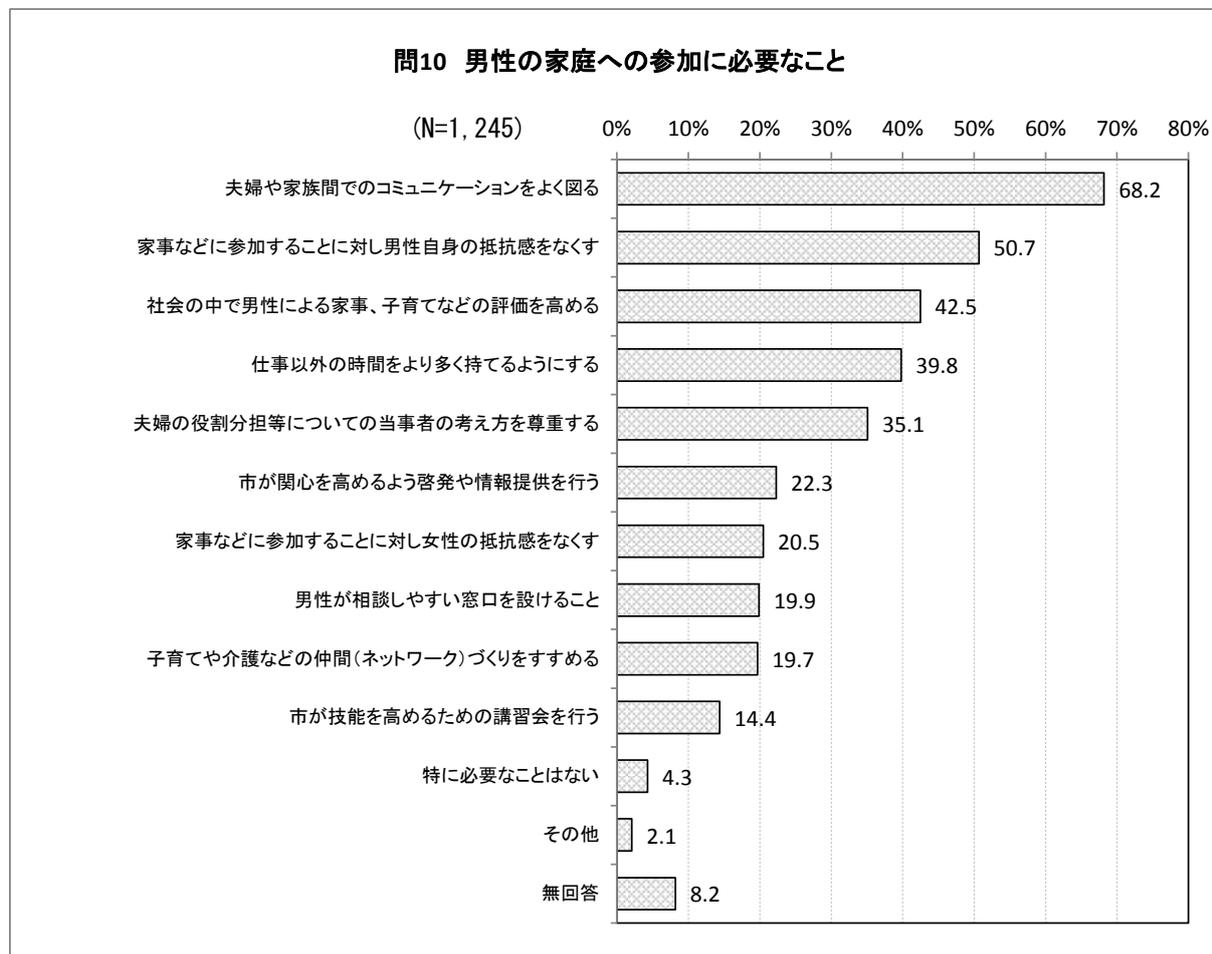
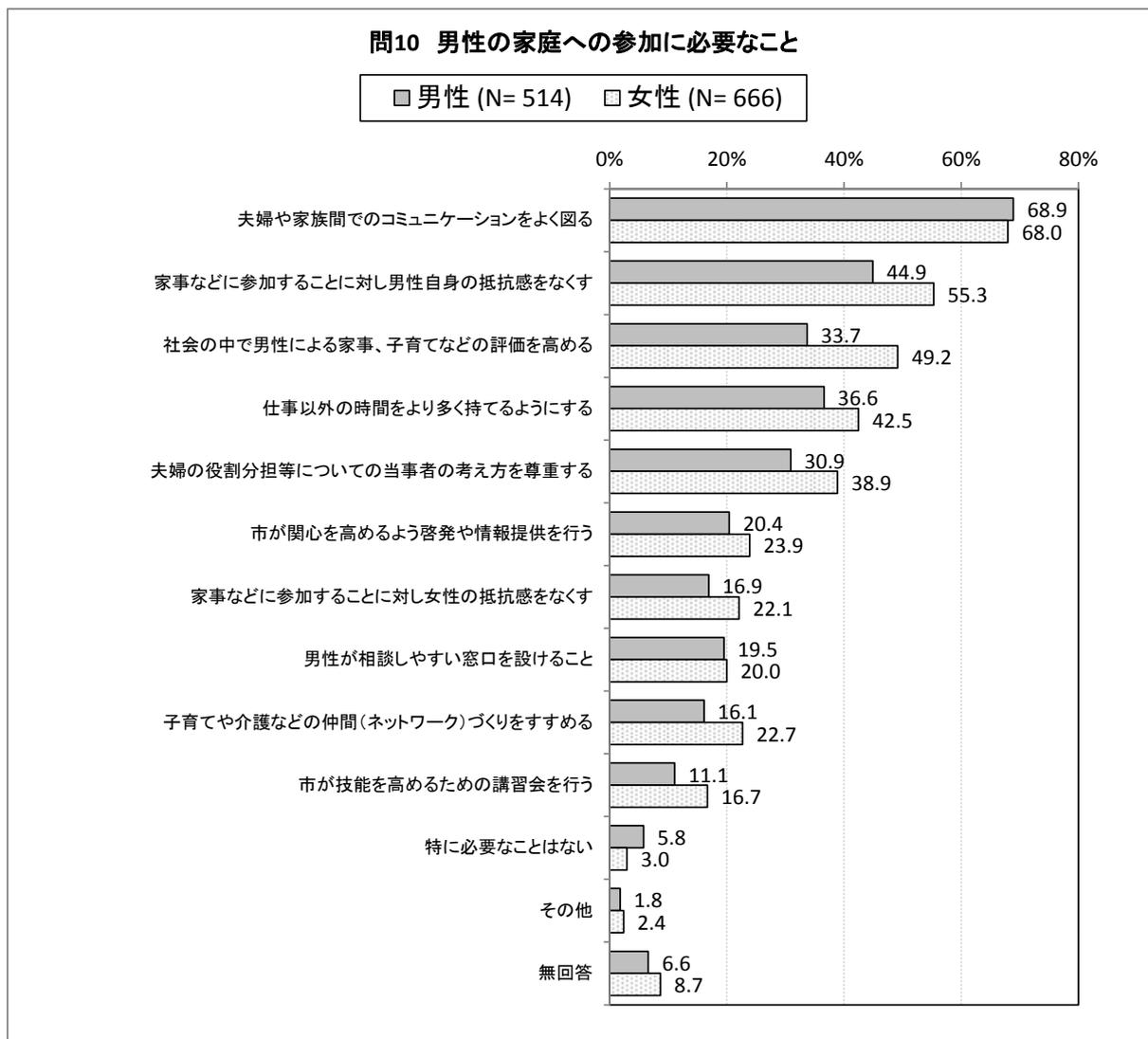


図 17-2



【図 17-1】「男性の家庭への参加に必要なこと」については、最も多い回答は、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図る」68.2%、次いで「家事などに参加する事に対し男性自身の抵抗感をなくす」50.7%、「社会の中で男性による家事、子育てなどの評価を高める」42.5%、「仕事以外の時間をより多く持てるようにする」39.8%、「夫婦の役割分担等についての当事者の考え方を尊重する」35.1%となっている。

【図 17-2】性別で見ると、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図る」は男女とも約7割となる。男女差の大きな項目としては「社会の中で男性による家事、子育てなどの評価を高める」は男性33.7%に対し女性は49.2%と高い。

内閣府世論調査と比較しても「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図る」66.7%、次いで「家事などに参加する事に対し男性自身の抵抗感をなくす」55.9%、「社会の中で男性による家事、子育てなどの評価を高める」48.6%、「仕事以外の時間をより多く持てるようにする」48.4%と同様の結果となっており、家庭や地域でのコミュニケーションが重要視されていることがわかる。

問11 生活の中での「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の優先度についてお伺いします。あなたの「希望」に最も近いものと、「現実」に最も近いものを、それぞれ1つ教えてください。(単数回答)

図 18-1

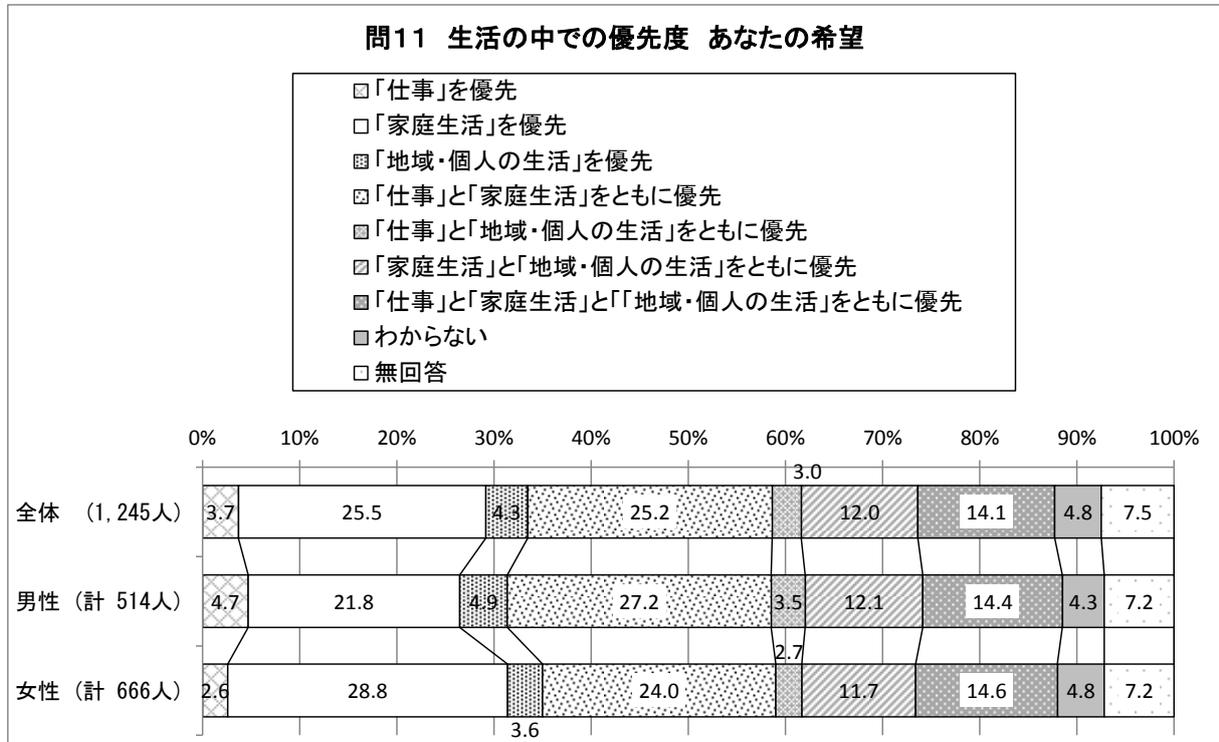
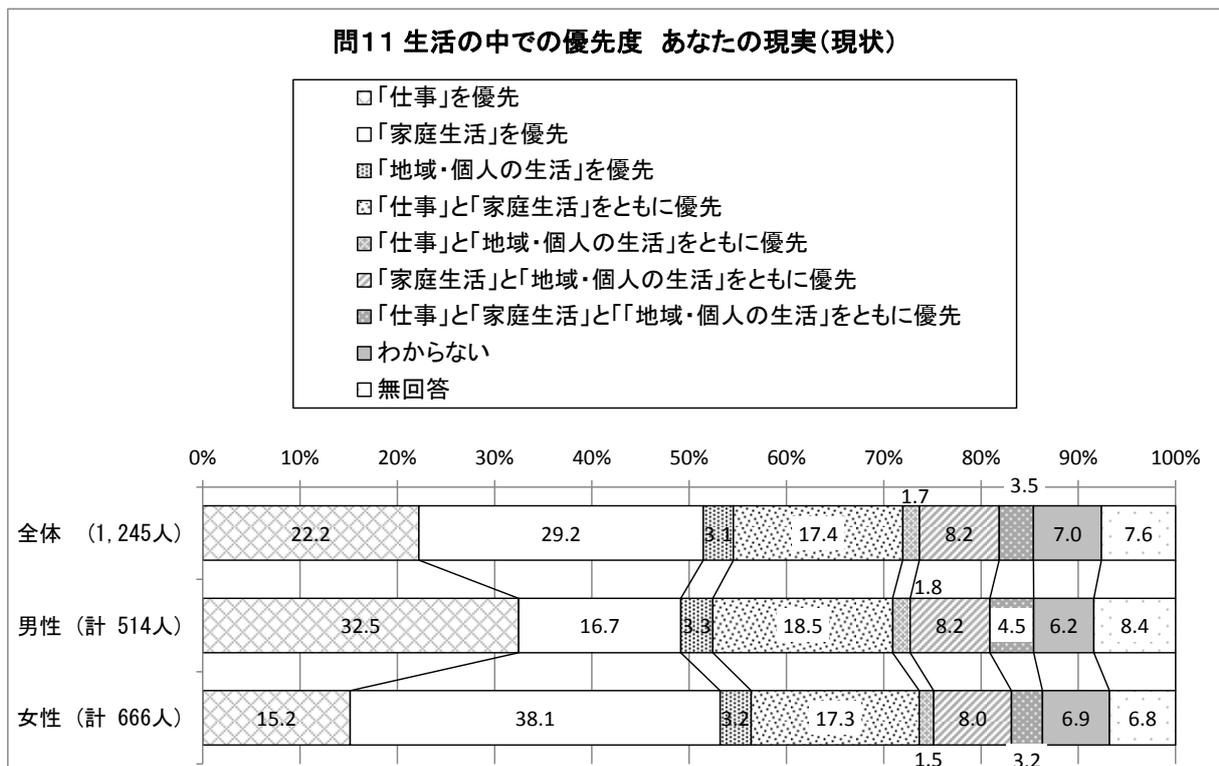


図 18-2



【図 18-1】「あなたの希望」については、男性で最も多い回答が『「仕事」と「家庭生活」を優先したい』で、27.2% (28.9%) を占めている。次いで『「家庭生活」を優先したい』が 21.8 (16.8%)、『「仕事」と「家庭生活」と「地域や個人の生活」を優先したい』が 14.4% (17.4%)、『「家庭生活」と「地域・個人の生活」を優先したい』が 12.1% (15.8%) となっている。家庭生活を中心に、仕事や地域でバランスよく活動したいとの気持ちが表れている。家庭生活を含まない『「仕事」を優先したい』は 4.7% (5.5%)、『「地域・個人の生活」を優先したい』は 4.9% (5.0%) と少ない。女性の場合、希望では 28.8% (28.6%) が『「家庭生活」を優先したい』と回答しており、次いで『「仕事」と「家庭生活」を優先したい』が 24.0% (20.9%)、『「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」を優先したい』が 14.6% (20.2%) となっている。内閣府世論調査で最も多い回答は、『「仕事」と「家庭生活」を優先』で 30.5% を占めており、本市の結果を上回る。次いで、『「家庭生活」を優先』 27.6%、『「仕事」と「家庭生活」と「地域や個人の生活」を優先』 15.9%、『「仕事」を優先』 9.8% である。本市と比べ、仕事の優先順位が高い。女性の場合、『「家庭生活」を優先したい』 33.6%、『「仕事」と「家庭生活」を優先したい』 29.7% となっている。その順位は同じであり、傾向は類似する。

【図 18-2】「生活の中での優先度あなたの現実（現状）」については、男性で、『「仕事」を優先している』が最も多く 32.5% (34.3%) となっている。次いで『「仕事」と「家庭生活」を優先している』 18.5% (22.2%) である。『「仕事」を優先したい』との希望は少ないため、希望と現実には大きな差があることがわかる。内閣府世論調査で最も多い回答は、『「仕事」を優先』で 37.7%、次いで『「仕事」と「家庭生活」を優先』 22.3% で、ほぼ傾向が一致する。女性では、『「家庭生活」を優先している』が 38.1% (37.2%) である。希望よりもその割合は多くなっており、内閣府世論調査でも『「家庭生活」を優先』が 45.3% であり、希望での割合を上回っている。

表2-1 生活の中での「希望」と「現実」（男性）

単位（％）

生活の中で優先したいこと （希望）	「仕事」 を優先したい	「家庭生活」 を優先したい	先「地域・個人 の生活」を優 先したい	「仕事」と「家庭生 活」を ともに優先したい	生「仕事」と「地域・個人 の生活」を ともに優先したい	た「家庭生活」と「地域・個人 の生活」を ともに優先し たい	と「仕事」と「家庭生 活」を ともに優先したい	わ か ら な い	合 計
生活の中で優先していること （現実）									
「仕事」を優先している	66.7	31.3	36.0	43.6	55.6	17.7	28.4	13.6	32.5
「家庭生活」を優先している	4.2	47.3	12.0	5.7	0.0	25.8	2.7	4.5	16.7
「地域・個人の生活」を優先している	0.0	0.9	20.0	0.7	11.1	8.1	2.7	4.5	3.3
「仕事」と「家庭生活」をともに優先している	4.2	11.6	12.0	41.4	5.6	4.8	21.6	0.0	18.5
「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している	4.2	0.9	4.0	1.4	16.7	0.0	1.4	0.0	1.8
「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している	4.2	3.6	8.0	1.4	5.6	37.1	12.2	0.0	8.2
「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している	0.0	0.0	4.0	1.4	0.0	1.6	25.7	0.0	4.5
わからない	8.3	0.9	4.0	3.6	5.6	1.6	5.4	77.3	6.2
無回答	8.3	3.6	0.0	0.7	0.0	3.2	0.0	0.0	8.4
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

「希望と現実のクロス集計」（表2-1）をみると、男性の場合『「仕事」と「家庭生活」を優先したい』と希望している人で、それを実現しているのは41.4%（39.7%）である。43.6%（47.3%）は「仕事」を優先している。『「仕事」と「家庭生活」と「地域や個人の生活」を優先したい』との希望を持っても、現実にはその28.4%（27.6%）は「仕事」を優先しており、また21.6%（25.3%）は『「仕事」と「家庭生活」を優先している』との回答である。『「家庭生活」を優先したい』と希望している人で実現できているのは、47.3%（40.5%）であり、31.3%（33.3%）は『「仕事」を優先している』と回答している。『「仕事」を優先したい』と希望している人で、現実にも『「仕事」を優先している』は66.7%（82.1%）と高い割合となっている。

表2-2 生活の中での「希望」と「現実」（女性）

単位（％）

生活の中で優先したいこと （希望）	「仕事」 を優先したい	「家庭生活」 を優先したい	先「地域・個人 の生活」を優 先したい	「仕事」と「家庭生 活」を優先したい	生「仕事」と「地域・個人 の生活」をともに優先したい	た「家庭生活」と「地域・個人 の生活」をともに優先し たい	とも「仕事」と「家庭生 活」を優先したい	わ か ら な い	合 計
生活の中で優先していること （現実）									
「仕事」を優先している	58.8	10.4	16.7	25.6	33.3	9.0	10.3	9.4	15.2
「家庭生活」を優先している	17.6	69.8	25.0	27.5	16.7	35.9	25.8	21.9	38.1
「地域・個人の生活」を優先している	5.9	2.1	29.2	0.0	16.7	3.8	3.1	0.0	3.2
「仕事」と「家庭生活」をともに優先している	0.0	8.9	12.5	39.4	11.1	3.8	25.8	6.3	17.3
「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している	0.0	1.0	4.2	1.3	5.6	0.0	3.1	0.0	1.5
「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している	0.0	3.6	8.3	0.6	5.6	41.0	8.2	0.0	8.0
「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人 の生活」をともに優先している	5.9	1.6	0.0	1.3	0.0	2.6	13.4	0.0	3.2
わからない	5.9	2.6	4.2	3.1	5.6	3.8	10.3	62.5	6.9
無回答	5.9	0.0	0.0	1.3	5.6	0.0	0.0	0.0	6.8
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

女性の場合は、『「家庭生活」を優先したい』と希望している人で、それを実現できているのは、69.8%（68.5%）である。『「仕事」と「家庭生活」を優先したい』と希望している人で、実現できているのは39.4%（36.1%）であり、27.5%（23.6%）が家庭生活を、25.6%（29.9%）が「仕事」を優先している。『「家庭生活」と「地域や個人の生活」を優先したい』と希望している人で、実現できているのは、41.0%（46.0%）であり、35.9%（31.7%）が「家庭生活」を優先している。『「仕事」を優先したい』と希望している人で『「仕事」を優先している』のは58.8%（60.0%）であり、17.6%（10.0%）は「家庭生活」を優先している。

図 18-3

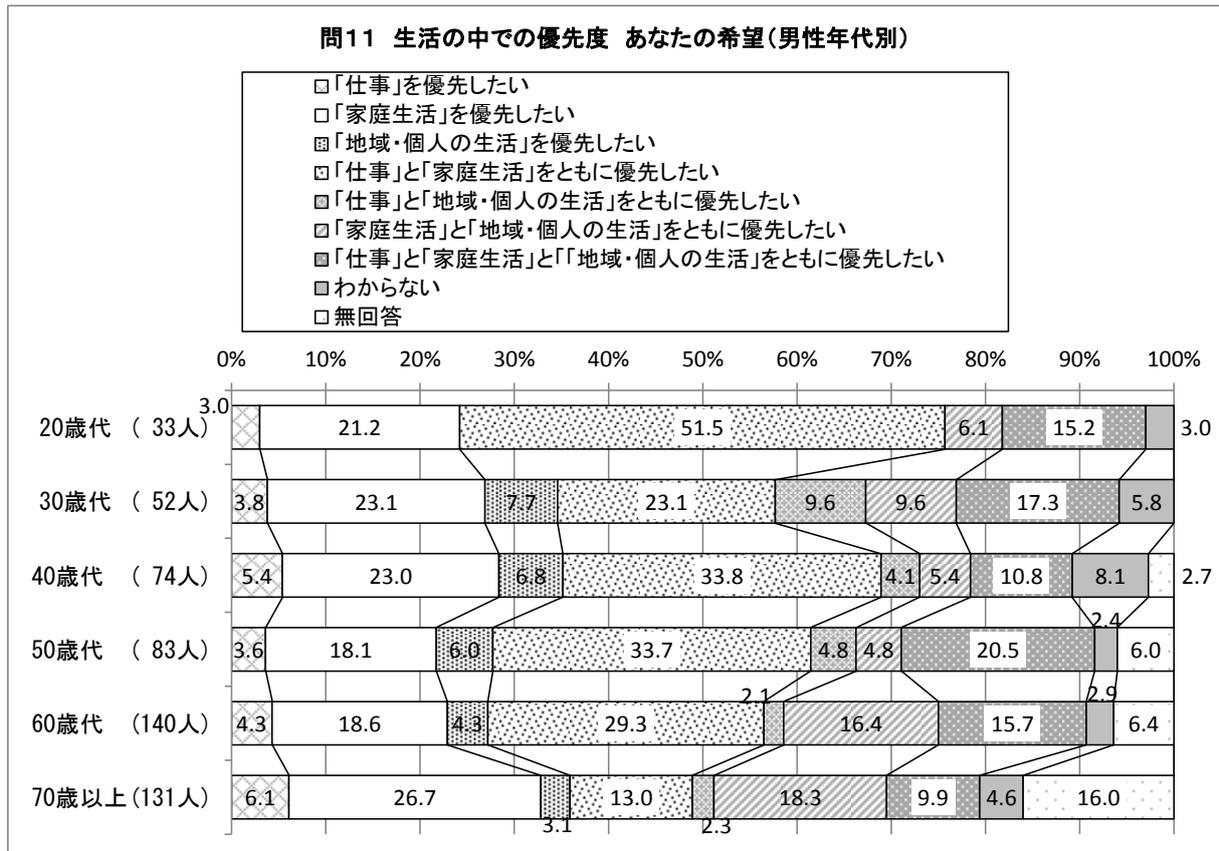
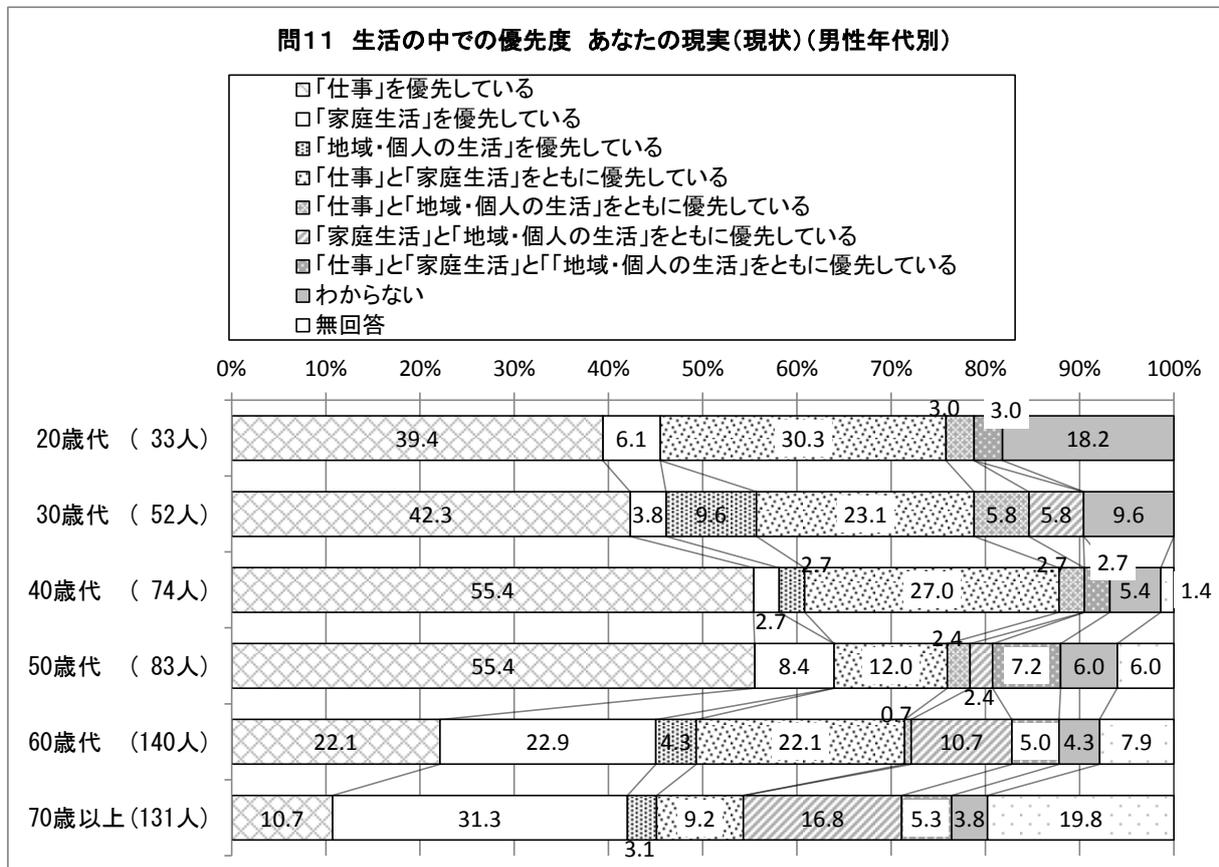


図 18-4



【図 18-3】年代別にみると、男性の場合、『「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい』という希望は、20 歳代では 51.5%であるが、30 歳代で 23.1%と割合が低下する。いずれの年代も『「仕事」を優先したい』との希望は 10%以下である。また『「家庭生活」と「地域・個人の生活」を優先したい』との希望は、年代が高いほどその割合が高くなる。

【図 18-4】現実については、50 歳代までのおよそ半数が、『「仕事」を優先している』との回答である。特に、希望との差が大きいのは、40 歳代、50 歳代で『「仕事」を優先したい』はそれぞれ 5.4%、3.6%に対し、現実にはいずれも 55.4%が『「仕事」を優先』している。

図 18-5

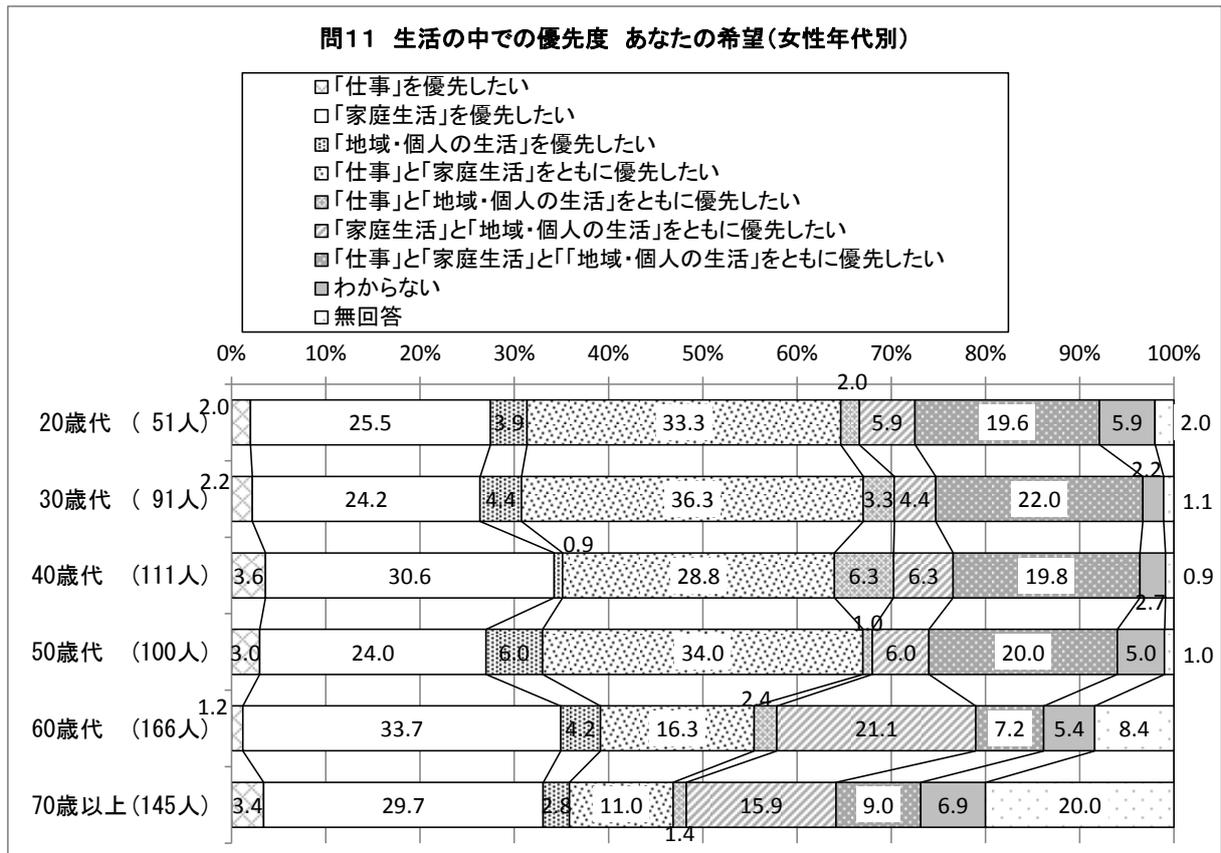
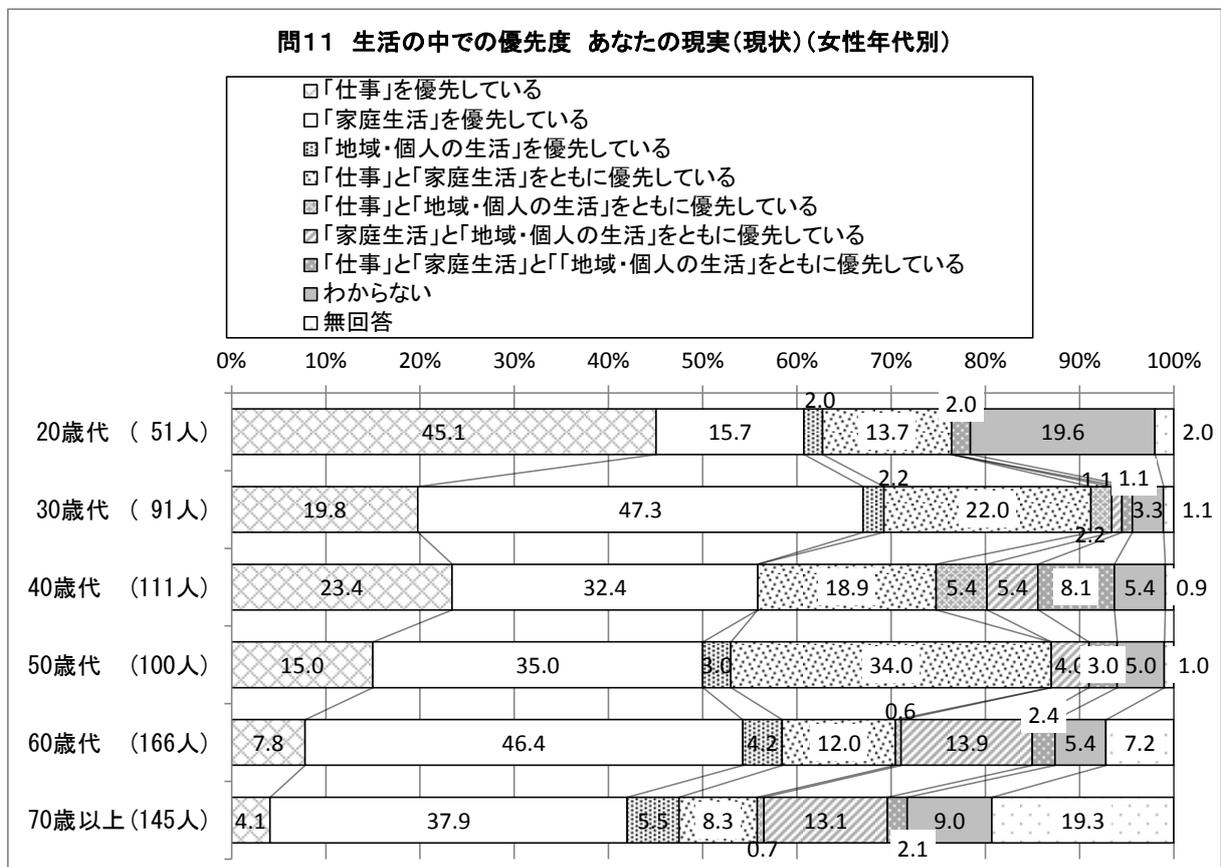


図 18-6



【図 18-5】女性の場合、『「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい』という希望は、30 歳代で 36.3% (31.4%) を占め、両立を希望する人が最も多い。40 歳代では 28.8% (29.6%)、50 歳代では 34.0% (23.7%) となる。一方、『「家庭生活」を優先したい』では、それぞれ 24.2% (35.2%)、30.6% (27.6%)、24.0% (31.3%) となり、前回との比較では、40 歳代を除き家庭生活だけでなく両立を希望する人が増えている。また 60 歳代以上で『「家庭生活」と「地域・個人の生活」を優先したい』との希望が比較的大きな割合を占める。

【図 18-6】現実については、『「仕事」を優先している』が 20 歳代で 45.1% (41.5%) であるが、30 歳代では 19.8% (15.2%)、40 歳代で 23.4% (26.5%)、50 歳代で 15.0% (10.7%) と仕事よりも家庭生活を優先していることは、男性と異なっている。